

第3回学校運営協議会議事録

大阪府立寝屋川支援学校
校長 南 貴子
准校長 清水 幸雄

開催日時：令和8年2月4日(水) 10:00~12:00

開催場所：寝屋川支援学校視聴覚室

(1) 定足数確認

4名出席

山中委員、眞鍋委員、森本委員、川橋委員

藤本委員、松本委員欠席

機器による録音了承

(2) 校長挨拶

1月13日にガス漏れが複数の個所で発見された、翌日安全面の点検のため全校休校にいった。原因は老朽化によるものだったが、子どもたちの安全安心のために施設面をしっかりと確認していきたい。

12月に清水准校長が着任をした。

(3) 報告事項

ア 令和8年度教科書について(安慶田首席)

・資料の通り

・前回の学校運営協議会にてご意見があった☆本の解説書が少ないという点について、今後増やせるよう検討を進めていく。

(川橋委員) 前年度からの継続されている教科書があるのは、なにか理由があるのか?

⇒(東川教頭) 学習指導要領に沿って12年間を見通したシラバスを本校では作成している。それに基づいて、教科書を採択している。継続使用については、3年間で目標を達成する観点で、決定している。

(森本委員) 小学校では、教科書があるのでそれに準じながら 通級教室などでは児童の実態に応じて指導方法を模索している。支援学校での指導方法をお知らせいただきより丁寧な指導がなされていると感じた。

(眞鍋委員) 児童生徒の実態に合わせた選定になっていると感じた。保護者はどんな勉強をしているかわからない部分もあるが、教科書が提示されることでイメージを持ちやすいと感じており、今後も継続して行ってほしい。

(山中委員) 御校は北河内のセンター的機能の役割も果たしているので、教科書を明示してもらっているのが、参考にしやすいと思う。

イ 令和7年度学校教育自己診断について(亀村首席)

・教職員アンケート→項目の変更なし。Google formにて実施し、100%の回答があった。結果としては、肯定的意見の割合が上昇されている。

・人権尊重による理解については、保護者によるアンケートでも肯定的意見が高かった。

・保護者アンケートについて⇒昨年の運営協議会での提言をふまえ、文言をよりわかりやすくした。回答率は、全体で7%増加している。全体的に高評価だった。学校の情報の提供や、人権尊重の点で高評価だった。

・進路やいじめの対応についての評価に改善が見られた。

・授業のわかりやすさや楽しさについての評価が前年度より減少した。

・授業改善を目的に、授業アンケートや首席が授業の助言を行うなど様々な取り組みを実施している。

・自由記述では、学校の様子が知りたいという意見などが見られた。

(川橋委員) 進路に関する項目で回答率の母数は小学部と高等部とでは異なるけど、保護者自身がどこまでイメージを持っているかという点が影響しているのかと思う。職場体験実習で生徒の受け入れを行っているが、そのときに高等部と高等支援学校との違いをよく質問される。中学部の保護者でも進路に関して不安な気持ちもあると感じた。

(眞鍋委員) 学校として、進路についてなどについての様々な取り組みを行っている。PTA 活動については、どのようになっているのかを知りたい。

⇒(南校長) これまで PTA 活動を多く行っていた。過去のコロナの影響もあり、縮小傾向になっている。保護者の意見を聞く場として、学校懇談会や学部懇談会を開き、機会を持つようにしている。

(森本委員) 年間15回の研究授業は、仮説に基づいて取り組んでいるのか。

また、外部講師を招聘や全体での取り組みを行っていると思うが、学校としてどのように取り組んでいるのか。

⇒(安慶田首席) 小学部・高等部に初任者がおり、それぞれの学部の首席が指導助言を行っており、協議会においても管理職等が参加し、様々な視点から助言を行い成長できるようにしている。

(南校長) 外部講師による助言は行っていないが、学校全体として合意形成を持ちながら進めている。特にポジティブ行動支援の考え方に基いて指導を行うようにしている。その一環として大阪教育大の教授や他校で実践を行っている先生を招いて、どのような取り組みをしていけばいいかを研修等を通して、進めている。

(山中委員) いじめ対応の項目について前年度より肯定的評価が8.6%増加になっている。次年度もいじめに対する取り組みについて、保護者がわかりやすいように学校から発信してほしい。全体的に肯定的評価なので、管理職や現場の先生が協力して進めているというように感じ、今後も頑張してほしい。

(4) 協議及び提言

ウ: 令和7年度学校経営計画及び学校評価について(校長、准校長)

校長) 去年の阪本校長の経営計画に基づいておこなった。

自己評価 ○評価指標クリア ◎それ以上の成果があった。

1 知的障害教育の専門性の向上

(1) ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫 今の段階では△ 3月24日の報告会で○になるのでは。

オ シラバスの活用を促進 シラバス・教科書の活用状況確認年2回以上 10月に1回しかできなかった。評価指標がクリアできなかったので△

(2) ウ ICTを活用した取組みを推進 研修会を行った。参加された方のアンケート結果の肯定的な評価95%以上だった。

プロジェクトマッピング 装置を買えなかった

エ 図書室の環境整備の継続 新しい図書を今回は購入していない。充実を図るという点では△

50周年記念ソング◎ 昼休みや帰る時に流している。子どもたちも楽しみにしている。

キ 防災計画◎ シミュレーションの実施。

ヒヤリハット報告◎ 去年2件 今年25件 報告増やしていきたい

(3) ア ポジティブ行動支援やポジティブな言葉がけ△ 全員での合意形成難しい部分もあった。

イ 他学部の取り組みを知る機会◎ 12月と2月に実施。教員同士の交流。良い取組み。

2 保護者・地域・関係機関との連携

(1) 保護者との連携を深める

ア 保護者が悩みを専門医に相談できる機会 1学期に3回 2学期に4回 3学期に2回 少なからずニーズがあった。これからもこういう機会を作っていきたい。

イ 自主単独通学△ 40%増やす なかなかいきにくかった。

(2)エ ボランティア◎ 去年1名 今年度5名

(3)イ 学校ブログ◎ 子どもたちが発信する件数 67件以上

3 働き方改革

(2)ア 教材バンクの活用△ 教材バンクに格納された情報教材 昨年度比120% 目標に至らなかった。しかし150件ぐらいは収集できている。

イ グラウンド使用後の簡易整備割合確認△ グラウンド整備として、にがりまきなどしている割合確認はできていない。来年度草刈りや石拾いはするが、にがりまきは業者委託。

ウ 首席分掌長主事等の業務軽減△ 仕事量の改善になっていない。

ク 会議の円滑化・充実を図る△ 15時半に児童生徒が帰って、休憩時間がある、16時15分から会議。17時までに終わらせて帰るのが難しいため、休憩時間に会議が入るというよろしくない状態が見受けられる。

(3)ア PT△ 新しいことを考えるところ。新しい発想がまとまったら動くことができるが、時間も少なく、目標指標にも無理があった。

(4)地域支援 地域支援◎ 学校付き1名 施設見学実施した

准校長)

1 知的障害教育の専門性の向上

(1)ウ 研究授業○ 初任の保健体育の授業 しっかり指導されていた。サブの先生との連携。子どもの活動量、わかって動けるということが大事。

(2)進路△ 学校教育自己診断の進路や職業に関する保護者の評価 もう少し進路指導部の先生方ともいろんな策を考えてもらっている。事業所の合同福祉説明会は充実させることで、ご理解いただいたり、関心を持っていただいたりできるのかなと思っている。

イ 職場見学・体験 企業の体験や先輩の話聞くことは、学ぶものがたくさんある。企画はたくさんしているので、ねらいをどう立てて系統立てていくかが課題。

(3)カ いじめ△ 学校教育自己診断の評価は上がってきているが、数値は届かず。学校としての取組みをどう発信していくか。

(4)ア 人権感覚を高める 呼称(~さん・~くん)は定着。高等部として、生活年齢を考えて、大人になりつつあるところをリスペクトした上での指導、再確認していく必要がある。

2 保護者・地域・関係機関との連携

(1)ア 進路 福祉事業所の合同説明会 たくさんの方に来ていただいた。情報提供を充実させる。

(2)ア 学校間交流 高等学校との交流 3年生は野崎高校。以前は茨田高校だったが今回が初めて。今回は生徒会の生徒中心。相手校の校長先生も来られ、喜んで帰っていかれた。非常に有意義だった。継続していきたい。

(真鍋委員) 小中高と3校種12年間がある学校は支援学校の中でもそう多くない。教員交流に有効に活用されている。深まっていければと思っている。

質問1) 高等部の自転車通学、いろいろな危険が伴ったり、近隣の方々のご理解がいたりする。自転車のマナーについてはどう指導していかれるのか?

質問2) 学校間交流 共に学び共に育つという点で、どのようなことをされたのか?

准校長) 自宅の近隣で自転車に乗っている生徒は結構いる。学校までの距離を考えてまだ始められていない生徒もいる。ただ、社会的自立を考えた時に、マナーや交通ルールを教えることも必要になってくる。本人・ご家庭の理解を深めながら少しずつ増やしていく。数ありき

ではない。

学校間交流について。高等部3年の野崎高校との交流では、野崎高校の紹介、モルック大会、昼食交流などを行った。あまりなじみのないモルックのルールを本校の生徒が伝えるなど、両校で協力して物事に取り組む姿が見られた。

校長) 補足として。自転車での自主通学については自宅が学校から半径2km以上の生徒に認められている。それ以外は徒歩又は公共交通機関のみであり、現在、自転車通学している生徒は高等部3年生の2名となっている。交通安全学習は行っているが、自転車に特化したものではないので、自転車のための交通安全学習も抽出して行う必要がある。

交流学習については、各学部でも取り組んでいるので、学部主事より報告する。

小学部 4年 交野市立星田小学校と本校で交流している。自己紹介、校内案内、ゲームなど。

5年 交野市立星田小学校でおこなった。初めて取り組んだ。自己紹介、ゲームなど。

中学部 学部全体 牧野高校 吹奏楽部に来ていただき、演奏を聴いたりダンスを一緒に踊ったりしている。

1年は、寝屋川市立望が丘中学校

2年は、寝屋川市立寝屋川三中

3年は、大阪府立北かわち臯ヶ丘高校と守口支援学校との交流もしている。

内容は、ゲームやクイズを行っている。生徒たち自身で企画や準備、当日の司会も行っている。

高等部 1年 大阪府立枚方なぎさ高校

2年 大阪府立西寝屋川高校

3年 大阪府立野崎高校

生徒会の生徒や希望者、枚方なぎさは自立支援コースの生徒もやってくる。

内容は、お互いの取り組みの発表(本校からはダンスの発表、高校では楽器演奏など)、他にゲーム大会など。

12月 北河内の支援学校職業交流会

(森本委員) 自己評価について、達成した後、どのように、継続していくのか、次年度の計画では何をとりあげていくのが難しいと思う。考えれば考えるほど多岐にわたってたくさんになってくる。大変だなという印象。

地域の小中学校の先生たちは支援学校の子もたちのその後の進路を知る機会がない。多様な進路があることがわかったので、地域の小中学校に対しても教えてもらえる機会があればお願いしたい。

(川橋委員) 防災防犯 今年度のヒヤリハット25件。引き続き件数を出していけるように取り組んでいただければよいと思う。

エ:令和8年度学校経営計画及び学校評価について(校長、准校長)

校長) 今年度の学校経営計画は、取り組む内容が具体的で、キャッチフレーズもありわかりやすいが、細部にわたっての理解につながっているのか、ということからスタートした(R8年度の)計画になっている。めざす学校像を極力わかりやすく変えている。

取り組むべき部署の改編を考えている。ただまだ先生方にもお伝えできていない状況。コンセンサスが取れたらお示しする。

1 知的障がい教育の専門性の向上、様々な角度からのアプローチ

大きくは去年からあまり変わっていない。

(1) コミュニケーションの多様化、教室にコミュニケーションカードの配備を考えている。

職員会議を短くして、10~15分のミニ研修でボトムアップを図りたい。

(2) (3) カリキュラムマネジメントとか行動支援、PT で進めてきた。こちらから発信するだけでなく、先生方に考えていただく機会をたくさん作っていききたい。

(5) 業務改善 例年通りやっていると業務改善につながらない。無駄を省きたい。評価指標

は1行事以上の改善。

- 2 安全安心な環境を基本とした、信頼される学校づくり
いじめの問題、防犯・防災、個人情報、医療的ケアなど
(5) 保護者が相談できる場 門戸を広げるようにしたい
- 3 卒業後の社会参加への準備
(1) ア 小学部から高等部までの12年間 どのような子を育てたいのか。キャリア教育の観点から組んでいき、保護者にも伝える。
挨拶・マナーに関する授業 年6回 小中で。
イ 外部の方、職業の方に来ていただいて、職業の授業をやってもらうとか考えている。
(2) 児童生徒の好きなことを伸ばす、得意なことを見つける。
2学期に対外試合に出た生徒について12月に表彰式をした。褒める機会を作りたい。
(4) 自主単独通学の推進
大阪府警、府教育庁より SafetyBicycle 推進校になりませんか、と打診あり。推進校への登録を考えている。
(5) 進路ガイダンス 小中学部は今まであまりなかった。保護者向け、子ども向けでおこなっていききたい。
- 4 教育公務員としての自覚と人権意識を高く持った教職員集団を育て、いきいきと働くための意識改革
教員に対して働き方改革を促す部分 先生方の健康を重視
(1) は大阪府の指針として、必ず書かないといけない部分。
ア 本校は時間外在校時間720時間の教員はいない。
イ 年休取得平均16日以上。なかなか厳しい。△になるかもしれないが、年休は計画的に使ってもらいたいと思う。
(2) ア 超勤30時間以上の教職員年間10人未満は厳しいので変更を考えている。
ウ ボランティア 今年度5名だったので、来年度は6名以上を目指す。
(3) イ 会議を50分以内にする。
ウ 外部委託
- 5 地域・関係機関との連携、地域支援
支援研究部 支援部と研究部に分ける。

准校長) 3 卒業後の社会参加への準備 について主に説明。

- (1) 12年間を見通したキャリア教育
ア 寝屋川接客ルールブックについて。挨拶・お辞儀の仕方など普段の生活と結びついていっているのかも考え、先生方が同じ方向を向いて指導していく、一定の指針を持ってやっていくのが大事。
イ 接客 外部の方が校内に来られた時に、挨拶がすっと出ることが大きい。職業や総合的な探究の時間の中で練習していく。いろんな場面を設定し、実践形式で学んでいく。
あいさつ・マナー検定 見える形でわかりやすい。子供たちが自発的に取り組めるようになったら良い。
ウ 職業 AB の中での学部間交流 小中学部との学部間交流充実させたい。
- (2) 自己肯定感を持つ
ウ バスケ・サッカーの表彰をした。緊張していた生徒も良い表情。
- (5) ア 福祉事業所の合同説明会 もっと充実させていく 保護者だけでなく、教員も参加して進路指導に生かしていく。

(川橋委員) 小中学部と高等部に共通する部分 マナー検定、接客・挨拶の徹底。最低限のコミュニケーションは身に付けて卒業していただきたい。

本校ではないが、実習の振り返りで来ていただく先生でマナーがよろしくない方いる。

いろんな経験をして学んで身につく。急に身につくものではない。

企業であり、事業所であり、保護者の方の受け取り方としては、ふさわしくない対応と思う方もいらっしゃると思うので、そのあたりもご注力いただければと思います。

(森本委員) 令和7年度の計画案を整理して次年度へ計画していることがわかった。令和8年度もさらに充実するようにお願いしたい。

計画案の中に地域支援整備事業の中核として地域の学校の支援教育力の向上に貢献するというのは、令和8年度に新たに入ったので地元の学校としてはとてもありがたい。どうぞよろしくをお願いします。

(真鍋委員) 高等部、大人になる時期をリスペクトする、というのは大変良い言葉だと思う。

その言葉を踏まえて、3 卒業後の社会参加への準備のところで何点か気になっている。

あいさつ検定、ルールブック作りなどは達成感を視覚化し、自己肯定感を高める企画だと高く評価したい。

これらについては日本全国、さまざまな支援学校で取り組んでいる。京都府では府教委と支援学校全校で仕事検定の取り組みをしている。御校が大阪の先例となればと期待している。

高等部を卒業し社会に出ていく。SNS、生成AIによるフェイクへの対応が気がかり。今は学校や先生方に守られているが、社会に出たときにどのようにして守られていくことができるのかどうか。

卒業後の金融教育・消費者教育、主権者による教育についても同様。18歳を過ぎて成人となっている生徒もいる。

将来的にこれらに関して支援学校として卒業後の指導もあればと考えている。

寝屋川支援学校は児童会生徒会の選挙について積極的な取り組みをしていて、主権者教育が進んだ学校だと思っている。そこからさらに進めていただくようご検討いただけたら。

(山中委員) ありがとうございます。さまざまなご意見を来年からの学校運営にいかしていただければ。創立50周年という大きな節目を迎えられ、また新たなステージへ邁進されて、100年に向けて進んでおられると実感している。

今年度の様々な取り組みにお礼申し上げますと共に来年度も寝屋川支援学校のさらなる発展をお祈りしたい。

(5) 校内見学について

本日の見学は難しいが、今週はバザールウィーク実施しているので、時間があれば見に来ていただきたい。

(6) 准校長挨拶

教科書について、採択されたものを今後の教育活動に生かしていきたい。

学校経営計画については、様々な取り組みの充実を図るが、12年間を見通したキャリア教育をしっかりと見つめていきたい。

今回で出た意見を参考にしつつ、さらなる充実を図っていきたい。

(7) 事務連絡

議事録は、メールで送付する。貴重なご意見等ありがとうございました。